

# 私たち専門学校で介護を学びました！

## 【高校から入学の学生①】

私が専門学校で介護を学ぼうと思った理由は、認知症の祖母を早く介護してあげたいと思ったからです。最初は大学志望でしたが祖母の認知症の進行が思っていたよりも早く、四年間行くと間に合わないと思い専門学校にしました。オープンキャンパスに参加した時に雰囲気も良く、先生と生徒の距離が近いところも魅力だと思います。ここで学びたいと強く思いました。また大学よりも短い時間で資格を取得でき、大学では5科目など高校と同様の勉強もするようだったのでそれよりも専門的に学びたいと思ったのも理由の一つです。

最初は、介護の仕事は肉体労働でも大変な職業で、利用者さんの生活を全てお手伝いするイメージがありました。しかし、勉強していくうちに、利用者さんの出来ることを大切に、自分でできることを増やしていくことが利用者さんの笑顔につながるのだと学びました。また認知症や老化など様々な理由で生きがいや役割を失ってしまった高齢者の方



に生きがいや役割を提供し、再び笑顔になつてもらい幸せを届けるというこの仕事はとてもキラキラした、かっこいい職業だと思います。自分の介助で利用者さんに笑顔で「ありがとう」と言っていただけは、介護のやりがいであり魅力だと思います。人と人の関わりの中、A1にはできない温かさや優しさがあるところも介護の良いところだと思います。

## 【高校から入学の学生②】

中学3年生の時に職業体験で老人ホームへ行き、利用者さんと関わった際に笑顔でお礼の言葉をかけてもらい、その笑顔を守っているのは、介護福祉士であり、それから興味を持ち調べていくうちに介護福祉士は魅力的で将来の夢になりました。県内の大学への進学も悩みましたが専門学校の方がより実践的な設備が揃っていて、また就職だと、資格を取得するために3年以上の実務経験が必要で長いと感じました。新潟医療福祉カレッジでは2年で資格取得が可能で、さらに実技試験が免除になることに惹かれ、また、オープンキャンパスへ参加した際に教員と学生の距離が近く、こなら楽しく学べると思い、専門学校進学に決めました。

介護の魅力は直接感謝の言葉を受け取ることができることと助け合えることができるのだと思います。利用者さんと一番身近で関わるからこそ直接笑顔で「ありがとう」を言ってもらえることができます。大変で重労働だと言われる介護の仕事ですが、



メールなどの文字ではなくその場で感謝を言うことができて、電子機器が発達し、対面でのコミュニケーションをとることが減ってきている中で人との関わりが介護では大切になります。介護施設へ行った際に利用者さんと介護士の方が笑顔で話しながら介護をしている現場を見て素敵な職業だと感じました。介護の仕事は一人で全てを行うのではなくチームで仲間と協力して楽しみながら行う素晴らしい魅力です。感謝されるとやっついてよかったと感じることがあります。

## 【テクノスクールの学生】

育児期間のブランクもありましたが、社会人となり二十年…。そんな私の頭の隅にあった介護職への興味が一気に膨らみ、無資格、未経験でも介護の職場に飛び込もうと決意し、就活を始めました。そこで色々な方から国家資格を目指すなら専門学校に通うことが最短だと勧められたものが最初は正直、学生になることに抵抗がありました。しかし専門知識・技術をしっかりと学ぶことが自分自身や雇用者側、何より利用者の方の安心・安全につながり、また家族が背中を押してくれたことで、チャンスがあれば学校で学んでみたいという思いになりました。

同じ目標を持った明るく元気で素直なクラスメイトからパワーを貰い、学ぶことの楽しさや、日々新鮮さを感じています。国家試験に全員合格を目指し、この時間は私の人生に於いての転換期としても貴重な経験となっています。



## 【実習生①】

私は実習を行って「利用者の方それぞれに応じた介助」が大切だと感じました。その理由は2つあります。一つ目は、その利用者の方によって残存機能が違うからである。どの利用者の方にも同じ介助方法をしていては利用者の方の体への負担が大きくなるだけでなく、介助中の事故にも繋がる可能性があります。そのため利用者の方に適した残存機能を活用して介助を行うことで利用者の方の体への負担を減らして安全に介助ができるだけでなく、利用者の方の残存機能の維持・向上にも繋がるため大切なことだと学ぶことができました。二つ目は、利用者の方によって一日の過ごし方が違うからです。利用者の方によって自宅で過ごしていた頃の生活と施設での生活は異なり自宅での生活が恋しくなる方もいるため、その方の自宅で過ごしていた生活にできる限り近づけてあげることが大切だと感じました。自宅で過ごしていた頃の生活に近づけてあげること、帰宅欲求を防止し、日常生活に活気が出るのではないかと考えた。このようなことから、実習で「利用者の方それぞれに応じた介助」が大

## 実習でどんなことを学ぶのか

専門学校では、実習施設、事業等の体験を通し施設機能、基本的ケアを学び、利用者の状況に応じた介護技術を適切に行えるよう実習を行います。



切だと感じたため、実際に介助する際には残存機能を活用した介助や情報収集をして自宅で過ごしていた生活に近づけるなどの「利用者の方それぞれに応じた介助」を実践したいと考えています。さらに実習で施設の雰囲気を感じ、また職員の方も尊敬できる方ばかりで私もここで働きたいと思い、受験し、無事に内定もいただくことができました。

## 【実習生②】

実習を通して、移乗介助について学びを深めました。その方が何ができるのか、理解力は何のくらいあるのかなど、把握することで残存能力を活かした支援につながると感じました。利用者の方の力を引き出す支援が大切だと感じ、コミュニケーションや日々の観察からその方を理解したり、状態の変化に気づいたりすることで、安心できる日々を支える支援につなげていきたいと考えています。また、支援の際は利用者の方を介助することが当たり前にという考えを取り除き、生活の質の向上、活につながるよう配慮を行うことが大切だと感じました。常に決まった支援を行うのでは

なく、その日の状態を見極める必要があると思います。個別ケアの必要性も学び、その方に合わせた支援を見出しでも見直すことがなければ意味がないと感じました。パターン化された支援の中や、日々変化する状態から気づきを得ることで画一的ではない個別ケアの幅が広がります。移乗介助においてその方の状態、体格を見ながら支援する必要があるので、普段当たり前にやっていることを1度振り返り、気づきを活かす支援を大切にしていきたいです。支援の1つ1つには意味があり、移乗の介助でも始めはうまくいきませんが、職員の方から優しくアドバイスをいただけただけのおかげで成長できました。実習は不安もありますが、職員の方や利用者さんが温かく迎え入れてくれて最終日には利用者さんが涙を流される方もいて私も別れを惜しむくらい、充実した実習ができました。